

特集

震災から
5年
どこで生きるか、
それぞれの選択

今度は「支える側」に。 避難先での再スタート

鈴木直清なおきよさん（埼玉県川越市）

生まれ育った福島県南相馬市で被災して5年目。避難先の埼玉県で新たな暮らしをはじめ、全国に住む避難者の元を訪れる支援の仕事に携わっています。故郷や原発への複雑な胸中を語ってくれました。

避難先が第二の故郷に。

あらたな縁

生まれも育ちも福島県南相馬市。南相馬市役所に勤めて、震災が起きたときは、市立の養護老人ホームの園長をしていたんだ。入所者、スタッフを合わせて80人ほどが、3日間は非常食、そのあとは配られたインスタント食品で食いつないだよ。入所者は身体の不自由なお年寄りが多いから、普通の人と同じ避難所には入れない。ようやく見つけて移った山形県鶴岡市の国民宿舎は有料だったので、滞在するほどお



金がなくなっていく。これでは長くいられないので、手当たり次第に受け入れ先を探したね。待っていたんじや埒が明かないんだから。

無料で被災者の受け入れをしている新潟県南魚沼市の保養施設を見つけて、今度はそっちへ老人ホームの入所者を連れて移動だよ。どうしても体力の限界で連れて行けない方はやむをえず、山形の施設に残して40人に減ったけれど、スタッフも減って、手が回らなくてしんどかったね。

その後、4月末に退職した後は、夫婦で子どもが暮らす埼玉県へ避難した。山形、新潟、埼玉と転々としたけれど、自分はまだいい方。プライバシーのない体育館やホールの避難所で



1951年福島県南相馬市小高区生まれ。南相馬市職員時代に勤務先の老人ホームで被災。埼玉県へ避難後、定住を決意。さいたま市の「福島県県外避難者支援拠点事務所」に勤務し、被災者の支援にあたっている。

何か月も暮らす人もいたんだから。

埼玉県比企郡鳩山町に移り住んでから、同じ境遇の避難者と集会をしたり、埼玉県内に避難している人と支援者が集まり交流する「福玉会議」に参加するようになった。南相馬の幼なじみとの再会もあってうれしかったね。妻は今でも奥さん同士でよくお茶をしているよ。

「福玉会議」に参加した縁で1年前からさいたま市にある福島県の「県外避難者支援拠点事務所」で復興支援員の仕事を始めた。福島出身の仲間たちと、全国に散り散りに住んでいる県外避難者を支援する仕事。生活の基盤が整って、支援される方からする方になったと言えるかな。

帰りたい気持ちと、 前に進みたい気持ち

去年、埼玉県川越市に土地を買って、新居がもうすぐ完成する予定。南相馬の家はまだあるけれど、この先帰ることはないだろうね。家も仕事も埼玉で再スタートだよ。

先祖代々守ってきた土地のある町に戻りたい気持ちはある。でも、国がどんなに新しい道路をつくったって、学校を除染したって、以前のように人が集まるんだろうか。帰ったとして何ができる？ 道路があってもダムは除染しないんじゃないあ、住んでいる人の飲み水はどうなるの？ 畑で作物を育てて、田んぼをして、春は山菜採り、秋はきのこ狩り、太平洋で釣りをして……。そんな田舎らしい暮らしはもう、で



「福玉サロン」は、2、3か月に一度、埼玉県に住んでいる避難者が集まっておしゃべりするイベント。避難中の方による出し物も行われます

きないと私は思う。釣った魚は食べずに逃がして、ミネラルウォーターを買って飲むのでは、以前と同じ「土地」には住めても、生活は別物さ。そこまでして福島に住むのを選ぶかと考えたなら、私の答えはNOだった。

以前住んでいた場所は、今は規制が緩くなつて日中の出入りは自由にできるし、手続きをすれば泊まることもできる。更地だらけになった町で新しく家を建てる人もいるけど、前の人口の2割もない。卵が先か、鶏が先かじゃないか、人が帰ってくるからインフラを整えるのか、インフラが整ったら人が来るのか？ 行政と住民の間で温度差がある。震災前よりさらに人が減って、せつかくの道路も学校も、ガラクソンとしてさみしいもんだよ。

前の家はこのあと解体して、除染することは決まっているけれど、そのあとは……。もうあそこに住むことはないよ。子どもがいる家族はとくに新生活をはじめているし、自分も埼玉で第二の人生をスタートさせた。

なぜ埼玉で暮らすことを決めたか？ 4年の避難生活のうちに土地に馴染んだんだね。他の避難者も、長く避難生活を送った場所ですっかり暮らしを始める人が多いよ。震災からもう5年、自然界ではたったの5年。元通りになるのはうんと先でしょう。我々も環境に対応していかないよね。



1月16日に一時帰省した際の南相馬市小高区の様子（鈴木さん撮影）。避難指示解除準備区域で立ち入り可能ではあるが、店は営業しておらず、休日の日中にも関わらず人の姿は見えない

田舎だったから、 原発が建てられたんだろうか

自分の住んでいた南相馬市小高区は、福島第一原発から十数キロしか離れてないけれど、常日頃から「原発に事故があったら、日本どころか地球がなくなる」と思っていたくらいだよ。今は太陽光発電なんかの安全なエネルギーがあるけど、当時は原発が最先端。それがなければ日本はエネルギー不足になるから、危険と隣り合わせでも必要だと思っていたんだ。

でも、電力会社の住民サービスはそりゃすごかった。子どもたちを関東の某テーマパークに連れて行くツアーとかね。福島の浜通りの農家は、小さい農地なのに全国の中でもトラクターやコンバインの普及率が高かったって聞いたよ。原発が来たから農閑期にも出稼ぎすることな

く、そこで働いて現金収入を得た。子弟は東電関連企業に就職できた。外から人が入ってきて、便利な店も増えた。原発の存在が自分たちの暮らしに直結していたんだ。高く土地を売って農家を辞めて、いい思いをした人もいる。もし双葉郡に原発ができていなかったら？「おら東京さ行くだ」の吉幾三の世界だね。今でも、なーんにもない田舎だっただろうね。

だからね、福島の間人は原発に対して複雑な想いを抱えているんだ。震災をきっかけに原発反対のデモが盛んになったけど、あれも……原発と関係ない場所に住んでいる人みたいに、はつきりと「原発反対！」とは言えないんだよ。浜通り（東部）の人は、事故が起きたからって、手の平を返して「そうだ、反対だ！」なんて口にはできないのが本音だと思う。その葛藤が取り上げられることは少ないけどね。

誰にも話せない 溜め込んできた想い

富岡町はまだ帰還困難区域もあって、帰れるようになるのは早くても来年4月と言われるエリア。そんな状況を気にしながら全国各地で避難生活をしている富岡町出身者がいる。今の仕事では、富岡町から全国各地へ避難生活をしている家庭を戸別訪問して、話を聞いて回っ

ているよ。

お年寄りは「話し相手がいないことが辛い」と口々に言うね。そりゃあそうさ、故郷でゆっくり余生を過ごすつもりだったのが、意に沿わない転居を余儀なくされたんだから。若い頃には自分の意志や仕事の都合で故郷を離れるのは全然違う。みんなが顔見知りの環境から知らない人だらけの土地になって、環境の変化に心がついて行けていない。



■福玉会議

埼玉県内に避難されている東北・福島の方々が互いに支え合う関係を築く交流会等を開催。「福玉便り」を発行して、支え合いのネットワーク作りをしています。一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会、認定NPO法人 ハンズオン! 埼玉らが運営しています。

福玉便り

■問い合わせ先

一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会
〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21
埼玉県勤労者福祉センター4階

【TEL】048-833-8731

【FAX】048-833-8746

【Eメール】srhk2000@viola.ocn.ne.jp

●寄付募集「福玉募金」

- 避難者のみなさんお一人おひとりに発送する「福玉便り」の経費などが不足しています
- 県内各地で開催されている避難者同士の交流活動を応援しています。

※詳しくは下記HPをご覧ください。

※寄付をした方には福玉便りが1年間送付されます。送付先のお名前、ご住所を次のメールアドレスまでご連絡ください。

【Eメール】fukutama@431279.com

<https://fukutama.wordpress.com/>

■口座番号

ゆうちょ銀行 店名(店番)038 普通預金 口座番号 6616820
埼玉広域避難者支援センター

新しい生活に対応したつもりでも、気持ちの方はそう簡単にかかないもんだ。それは故郷に帰りたい人も、避難先で再スタートすることを決めた人も同じじゃないかな。
今はそんな気持ちに寄り添うために、同じ被災者である自分が全国の避難者を訪れている。ずっと溜め込んできた想いを吐き出す人がたくさんいるよ。

(談)